

個別最適な学びの実現に向けて

校種	小学校・6 学年	活用場面	家庭学習
活用できる I C T 機器	タブレット端末	活用するアプリ等	ミライシード「ドリルパーク」
家庭学習において I C T を活用しようとした動機			活用の様子・児童生徒の声等
コロナ禍において、教師が宿題等を直接添削、指導を行うことが困難となった。そこで、A I 機能を搭載したドリルパークを活用することで即時添削が可能となり、児童一人一人の進歩状況を見取れ、「知識及び技能」の定着が進むと考えた。何度も反復できるものをドリルパークで学習するようにした。			
具体的な課題の出し方・回収及び確認方法			
ドリルパークで宿題配信機能を使う。配信するドリルの内容（小学1年生～中学3年生までの内容は自由に選べる）と量を考え配信する。教師がリアルタイムで児童の進捗状況を確認することができる。正答率、不正解の内容等も見取ることができる。			
成果・押さえるポイント			
<成果> ・ 正確に採点することで理解が深まる。（例 漢字の止め、はね） ・ フィードバックの速さ（即時採点） ・ 全児童を見取ることができる。 ・ 学年を越えて予習、復習をすることができる。 <押さえるポイント> ・ 知識・技能に関する問題を多く取り組ませる。（即時添削で定着がより進むため）			



